



Automation Studio™  
ライセンス・マネージャー  
クイック・インストール・ガイド



# 目次

1	序文 .....	1-2
2	<b>Automation Studio™ ライセンスマネージャー .....</b>	<b>2-1</b>
2.1	必要最低限の設定 .....	2-1
2.2	Automation Studio™ライセンスマネージャーのインストール .....	2-2
2.3	ライセンス管理インタフェースの最低限設定 .....	2-4
2.3.1	設定 .....	2-6
2.4	エクストラ .....	2-9
2.4.1	クライアントとサーバが別々のパソコン .....	2-9
2.4.2	2つのネットワークカードのあるサーバ .....	2-9

# 1 序文

Automation Studio™ はユーザーのニーズにお応えする革新的な製品です。このガイドはソフトウェアのインストールをサポートするための書類です。

## ライセンス

Automation Studio™が起動するには「ライセンス」が必要となります。ライセンスに関する情報は保護キーに保存されています。保存されている情報は：

- Automation Studio™のバージョン
- Automation Studio™の何版（プロフェッショナル版、教育版、シミュレーション版、設計版）
- ご購入されたワークショップとモジュール
- ライセンスタイプ（ローカルかネットワーク）

**ローカルライセンス**の場合、USB キーは Automation Studio™がインストールされてるワークステーションの USB ポートに接続する必要があります。この場合、ライセンスはローカルユーザーだけが使用できます。

**ネットワークライセンス**は複数のワークステーションで共用されるように設計されています。USB キーはマシンの USB ポートに接続され、ワークステーションがそのマシンにアクセスできるように設定する必要があります。そのマシンは「ライセンスマネージャー」を実行します。

このガイドはローカルかネットワークライセンスでの Automation Studio™の設定の仕方を説明します。ネットワークライセンスの場合、それに関するソフトウェアのインストール手順とネットワークライセンスの管理の仕方を説明します。

## 2 Automation Studio™ ライセンスマネージャー

この章ではネットワークライセンスのインストールと使用に関して説明します。更に、ネットワークライセンスの管理をするためのライセンス管理インタフェースに関する説明もします。



インストール方法の詳細については、『インストールおよび管理ユーザー ガイド』を参照してください。ガイドは[クライアントゾーン](#)からダウンロードできます。

### 2.1 必要最低限の設定

こちらが必要最低限の設定になります：



**OS 版 (32 ビットまたは 64 ビット) :** Windows 10 (バージョン 1607 - ビルド 14393 リリース日 2016 年 8 月), 11 または Windows Server2016 (バージョン 1607 -ビルド 14393 リリース日 2016 年 10 月)、2019 年および 2022 年。



**Protocol:** TCP/IP。



**ディスク容量 :** 1 GB の空き容量。



保護キーをサポートするには、USB ポートが必要です。

## 2.2 Automation Studio™ ライセンスマネージャーのインストール

この章では、組織が独自のサーバーをホストする場合に、AutomationStudio™ライセンスマネージャーをインストールする方法について説明します。サーバーをホストするマシンがサードパーティの組織に属している場合は、章 2.3 ライセンス管理インタフェースの最低限設定に移動してください。

ダウンロードエリアに接続し、PNL で始まるパッケージのフルバージョンをダウンロードします…。

インストールするには、以下の手順に従います：

1. Automation Studio™ライセンスマネージャーのフルバージョンをダウンロードする
2. ダウンロードしたファイルを一時的なローカルフォルダに解凍します。



ネットワーク経由でのインストールは避けてください。



アプリケーションをインストールするには、ユーザーに管理者権限が必要です。

zip ファイルが解凍されたら、ファイル `install.exe` を見つけて実行すると、Automation Studio™ ライセンスマネージャーのインストールが開始されます。

言語を選択して「Next」のボタンを選択してください。

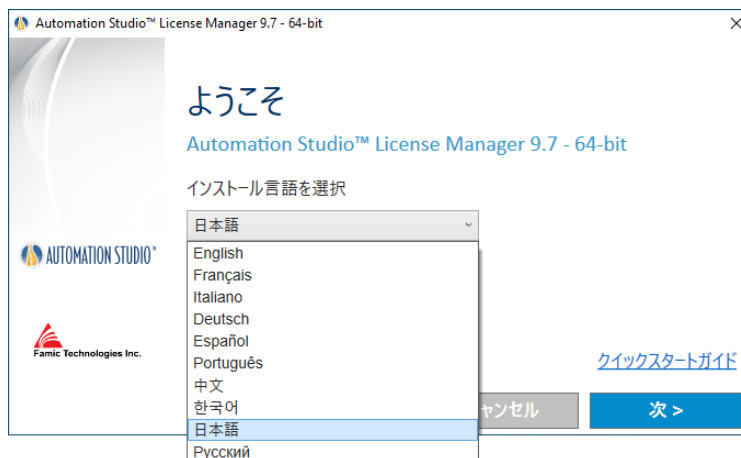


Figure 2-1: 言語を選択

ライセンス契約を読んで同意をクリックし、次をクリックしてください。以下のウィンドウが表示されます：



Figure 2-2 : Automation Studio™ ライセンスマネージャーのインストール

サーバーサービスがインストールされているパソコンからライセンスを管理したい場合、「サーバー」と「クライアント」両方のボックスをチェックしてください。

ライセンスを他のパソコンから管理する場合（リモートアクセス）、章 2.4.1 クライアントとサーバが別々のパソコンをご参照ください。

## 2.3 ライセンス管理インターフェースの最低限設定

ライセンス管理インターフェースを起動する前に以下を確認してください：

- ライセンス用 USB キーがライセンスマネージャー（サーバー）がインストールされてるコンピューターの USB ポートに正常に接続されているかを確認してください。
- Automation Studio™ライセンスマネージャーが実行中かを確認してください。



管理インターフェースを実行するコンピューターにファイアウォールが起動中の場合、Automation Studio™との通信が許可されてるのかを確認してください。通信はポート 8095 で実行されます。

管理インターフェースがインストールされた後、「Automation Studio ライセンス管理」のショートカットをクリックしてください。ショートカットの位置は「スタート」→「プログラム」→「Automation Studio ライセンス管理」



Figure 2-3: Automation Studio ライセンス管理

「認証」ダイアログが表示され、管理者の名前とパスワードを問われます：

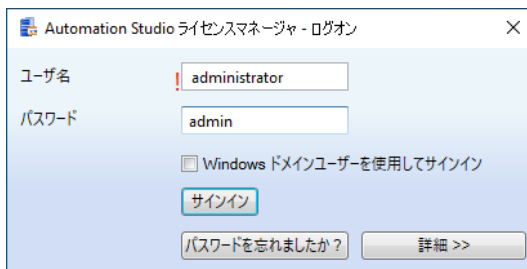


Figure 2-4: ライセンス管理インターフェースの“認証”ダイアログ



管理インターフェースがユーザーアカウントを受け入れるにはライセンスマネージャーでユーザーアカウントを管理者としてタグする必要があります。ユーザー「administrator」は初期的に作成され、パスワードは admin です。

管理インターフェースウィンドウの左側にサイドバーがあります（Figure 2-5: サイドバ



一、ライセンス管理インタフェース)。そのサイドバーでメインウィンドウにどの情報を表示したいかを決めます。表示されている情報はユーザーの行動に従って変化します。

サイドバーは2つのグループに分かれています：「ライセンスマネージャー」と「管理者」。どちらかのグループをクリックしてその中身を表示します。

サイドバーの右上にある画びょうに押すとサイドバーを隠す事が出来ます。そうすると、サイドバーの代わりに「メニュー」ボタンが表示されます。マウスをそのボタンにドラッグするとサイドバーが表示されます。



Figure 2-5: サイドバー, ライセンス管理インタフェース

## 2.3.1 設定



「設定画面」にアクセスするには、サイドバーにある アイコンをクリックしてください。（「ライセンスマネージャー」のグループ内）

「設定」画面では会社が購入してネットワークライセンスを定義することができます。ライセンスの更新、もしくは削除も可能です。

### 新しいライセンスを定義


リストの上にある  ボタンをクリックしたら新規ライセンスを定義できます。もしくはリストに右クリックして「追加」をクリックしてください。



Figure 2-6: キーの情報を入力

そうしたら新しい行に「番号」と「名前」のフィールドを入力する必要があります。「名前」フィールドはどの名前でも大丈夫です。ライセンス番号は USB キーに書いてある5桁の数字です。

「適用」ボタンをクリックしてください。



番号	名前	接続	製品	最大ユーザー数	失効日	範囲	IWAN有効期限
更新	58890	Electrical package					

Figure 2-7: キーの情報を入力

ライセンスマネージャーの再起動を要求する赤いメッセージが表示されます。「停止」ボタンをクリックして「スタート」ボタンをクリックしてください。

## プロフィールにライセンス許可を与える

Automation Studio™ クライアントに接続する前にはライセンスを許可する必要があります。

「管理」グループ内の「プロフィール」を選択し、「AllUsers」をダブルクリックしてください。

右上にある「License」部分のオプションを「Granted」にして、「適用」ボタンをクリックしてください。

これでネットワークライセンスの設定が完了しました。



Figure 2-8: ライセンス「プロフィール」スクリーン

## ネットワークライセンスのアップデート

どのネットワークライセンスも更新可能です：

- ライセンスの最大ユーザー数を上昇
- Automation Studio™の新しいバージョンにライセンスをアップグレード
- ライセンスにモジュール/ワークショップを追加

ライセンスを更新するにはまず *Famic Technologies Inc.* に連絡する必要があります。  
[production@famictech.com](mailto:production@famictech.com) にメールしてライセンスの更新コードを要求してください。

👉 年間メンテナンスプランを持っている場合、新しいバージョンが公開される時、自動的に更新コードが届きます。

更新コードを貰ったら、「更新」のボタンを押して（詳細は Figure 2-7: キーの情報を入力）更新の手順に移動します。ボタンはライセンス番号の左です。

「ライセンス更新」ダイアログが表示されます：

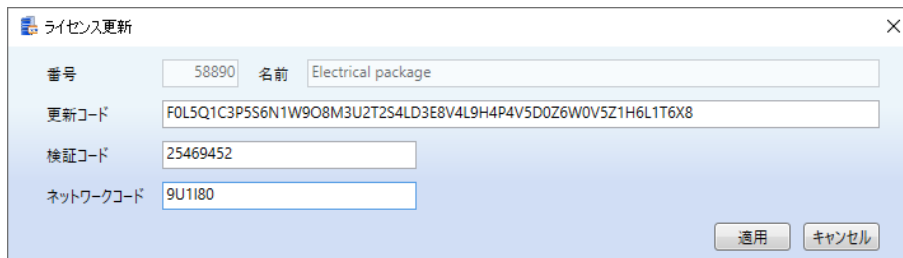


Figure 2-9: “ライセンス更新” ダイアログ

貰ったコードを「更新コード」、「検証コード」と「ネットワークコード」を入力して、適用をクリックしてください。

👉 ☒ Figure 2-9: “ライセンス更新” ダイアログにあるコードは無効です。Famic Technologies Inc. が送ったコードだけを使用してください。

👍 コードは一文字ずつ入力するのではなく、コピー&ペーストする事をお勧めします。

👍 ネットワークコードがない場合、このコードはスタンドアロンライセンス用である可能性があります。続ける前にキーのタイプを確認してください。

## 2.4 エクストラ

### 2.4.1 クライアントとサーバが別々のパソコン

ライセンス管理インタフェース（「クライアント」）を Automation Studio™ ライセンスマネージャー（「サーバー」）と異なる機械にインストールしたい場合、「サーバー」もしくは「クライアント」のみを選択して「次」をクリックしてください（詳細は図 Figure 2-2 : Automation Studio™ ライセンスマネージャのインストール）。

この場合、設定スクリーンへアクセスするために設定ファイルを編集する必要があります：

1. ファイル「ASNETLMPref.config」をテキストエディター（例：ノートパッド）で開いてください。ファイルの位置は：「C:\ProgramData\Famic Technologies\Automation Studio」。
2. 四番目のラインを変更する必要があります。こちらがそのラインです：  
**<add key="ConfAccessIplist" value="127.0.0.1;;;1"/>**
3. ラインをこちらの様に編集してください：
  - 特定の機械のクライアントから Automation Studio™ ライセンスマネージャーへアクセスしたい場合：  
**<add key="ConfAccessIplist" value="127.0.0.1;[IP];;;1"/>**（[IP]の部分にクライアントがインストールされるパソコンの IP を入力してください。）
  - ネットワークにあるどのコンピューターのクライアントから Automation Studio™ ライセンスマネージャーへアクセスする場合：  
**<add key="ConfAccessIplist" value="127.0.0.1;\*;;;1"/>**（[IP]の部分を変えてください）
4. ファイルを保存

### 2.4.2 2つのネットワークカードのあるサーバ

サーバーがイーサネットカードを2つ以上持っている場合、Automation Studio™ ライセンスマネージャーがどのカードを使用するかを指定する事ができます。そうするには、ファイル「ASNETLM.config.xml」（ファイルの位置は C:\ProgramData\Famic Technologies\Automation Studio）をテキストエディター（例：ノートパッド）で開いてください。2番目のラインを変更する必要があります。2番目のラインの最後尾

にこちらを追加してください： ***EthernetAdapter="IP Address"***。



選択されたイーサネットカードの IP アドレスを入力してください。ラインはこちらの例の様に書いてるはずです： ***<ASLSERVICE name="servername" ServiceDefaultPort="5301" EthernetAdapter="192.168.0.4">***

```
1 <?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
2
3 <ASLSERVICE name="servername" ServiceDefaultPort="5301" EthernetAdapter="IP address">
4   <Organization orgId="default" name="default"/>
5   <License orgId="default" keyId="1000001" name="test"/>
6 </ASLSERVICE>
```

Figure 2-10: イーサネットアダプタの設定